



北蝦夷圖繪 = Kita Ezo zusetsu. [vol. 3] 1855

Mamiya Rinzō, 1780-1844
[s.l.]: [s.n.], 1855

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

北蝦夷圖說

南方初島部
ヲロツコ夷部

三

J-1310-3

北蝦夷圖說卷之三

常陸

間宮倫宗口述

備中

秦 貞廉 編

產業部中

一島夷の業とほらやくもろ海漁ハ蝦夷島より異ちるてるく鮭鱈
鮓其他雜魚と漁れ此島鮭殊小多く春ら必羣集ほらやく數
度あつ其時ハ海面一色小白くかるたゞ米泔の如一夷等其
趣と見得て是と漁らむよ纏網と以てし其得る者多く甚多
又夜中よ火を點して海岸よ漁れよとある其状圖のぞ
此二漁蝦夷島の夷専らよ行どるところなり

一山獵り又異ちがひをもようべとよごど。獸皮けいひを以て山且夷或もく
滿洲小交易こうぎょうひるゝと此島夷の專勢せんせいとよこころわれはら
男夷専せんら是ぜと勤む其そ状じょう蝦夷島えし小異ちがひをかの下した小圖說こず。

一ホイヌと獵りやくをもようべと圖ずのざざく溪間野中せきまの小流おうりゅう小木こぎと度わたすよる
ちて猿さると設せつけ獸來くるて此木このぎと渡わたる時ときに猿數さるをを獸の身體じ身體と
縛ば一水中すいじゆ小投なげせせむ跋躍ばつよきて遁のひのの間浮沈まんふせんして
水みずとくくらひ終おひ死しい此猿さる。奉邦ほうぽうのそねわるわ小異ちがひをかの
一只木ひと木の横面よこめん小設せつけ獸けいと浮うきる時とき水みずよ投なげせせむよととを
かひかひを巧こうど

一リキンカモイと獵りやくをもようよ事こと猿さると設せつけ是ぜと獲とらる獸けい常つねよ

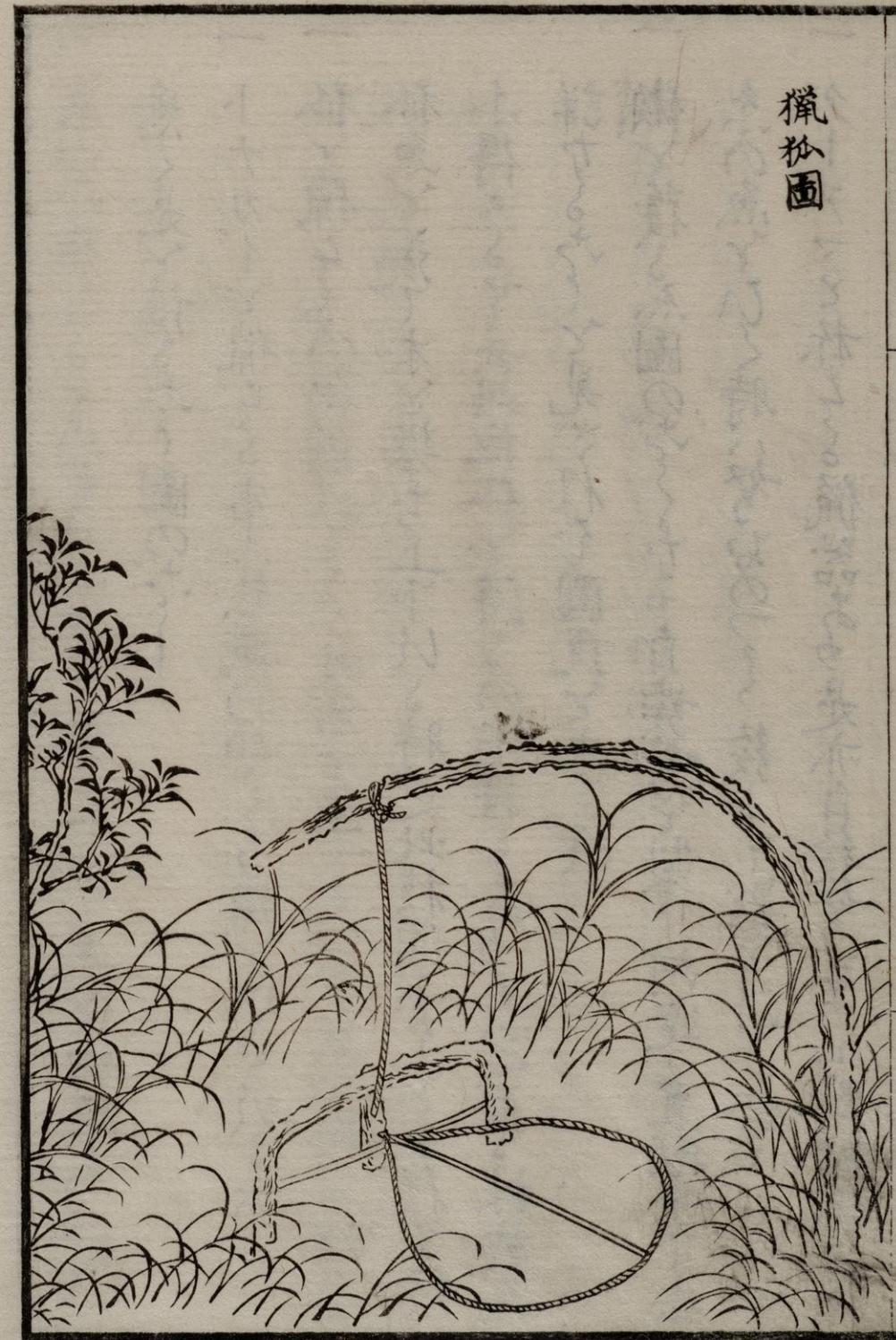
岩山小居いわやをもつてのなれど岩いわに聳そびえ立たつて其間獸路じゆろある所ところハ
悉く是と設つくるやと圖絵のが

一トナカイと獵りやく事ことハ熊獵の如くう鎗やりと以もつて云い

一狐と獵りやく事ことの術圖じゆハ枝木と建て其上うへに魚と掛る時とき
狐魚と羨うらやまして木と攀いざなぎ上下じやくじやくする時とき此枝間しじまん小魚こぎょとまれて終す
不得めらるま云い此他狐と得めるの術種じゆくありとぞ林藏りんざう其その
詳くわなるやと見むかせば圖說がと出ださば

一獵りやくと獲とらふ圍いはのがくわと自ト發は努だと製つくり一河邊かわべに置おき獸來けものて垂たる
糸いとの魚としく時ときハ弩ぬをのつて發はして獸と得めるまと
一グーアマと称いふる獵器りやくきあり是亦自ト發は努だす山野さんや獸路じゆろの設つくる

獮松圖



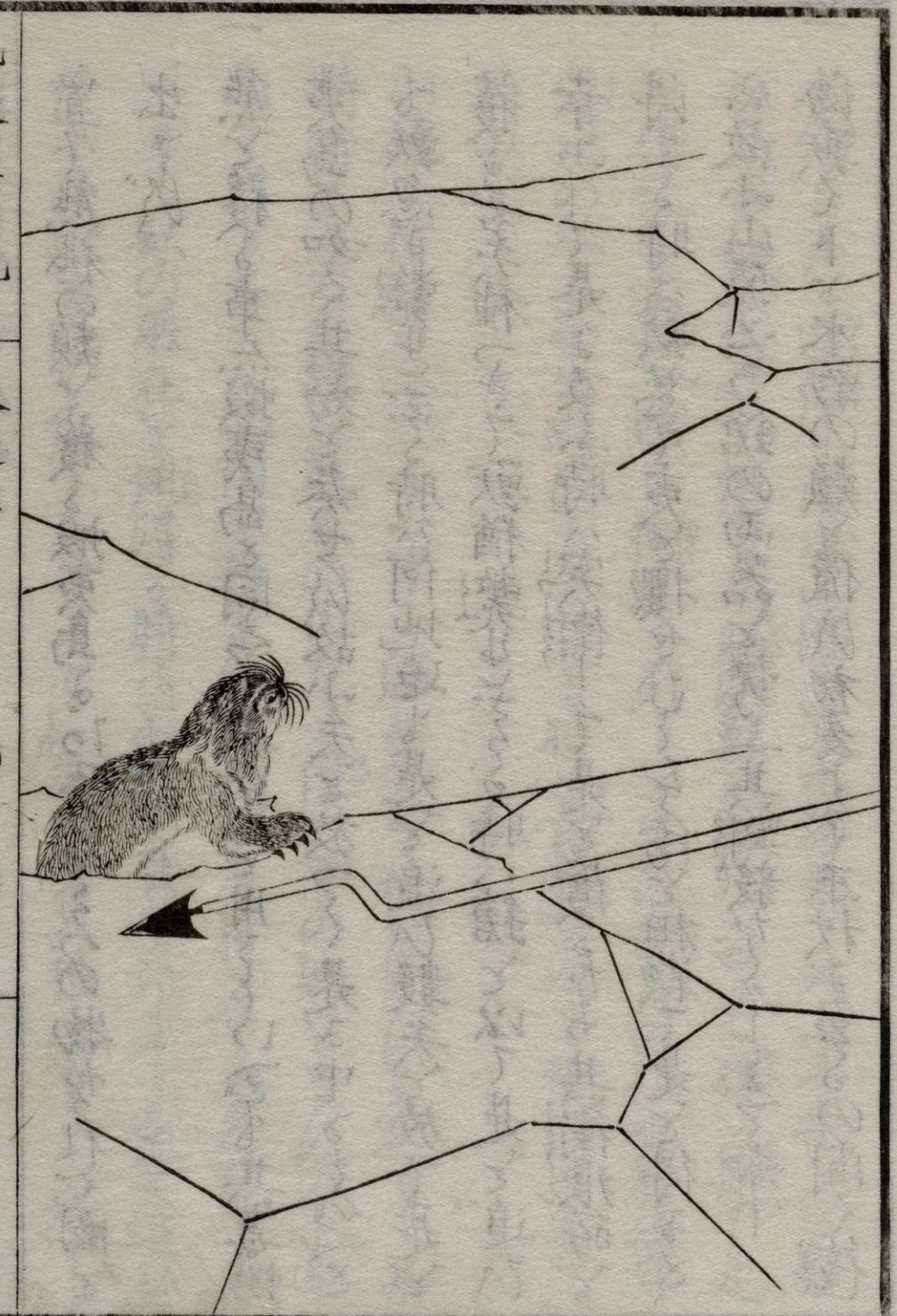
獲獺圖其一



其二



衝海獸圖



置て熊狐の類と獲る蝦夷島よりとくろの物なれば國と出さば

一熊と獲る事、蝦夷島と同く毒箭と用ふといふも其毒蝦夷島の如く其効を奏せり故小矢を放つて是より中るゝほども獸忽々斃^ス生^スざる時ハ何地追ひ是を追ひ數矢を放て是を獲る若矢種つきて獸猶斃^ス生^スざる時ハ鎗と以て是を追ひ幸ふて是より及ぶ時ハ突衝^{トウショウ}して是を獲る。又其衝痕所を得ざる時ハ獸怒て夷と攫^スせしもと相戦て是を得ると云故小山獵必う鎗の兩器を携ふ其別殺^{タマリ}たること多^シ一海獸でトド水豹の類と獵ひ初夏より未秋までの間く後

の如く木と連編て海上浮め置水豹來て此上に乗ると窺
ひ島夷舡と出きて蝦夷島脛臍^{アシ}臍^{アシ}獸と獲るあやく粽^{アマ}と擲て是
を得又長粽^{アマ}と以て衝獲^{アマハツ}もととちり冬月の頃水豹海岸
洋中の氷上ふ出遊びを見る時長粽^{アマ}と以て衝得^{アマハツ}る事有
國の事

一山獵^{アシ}行時ハ三四^{アマ}で山中^{アシ}滞留^{アシ}獵^{アシ}と乍ら^{アシ}と^{アシ}其
持行^{アシ}の糧^{アシ}乾魚^{アシ}の肉^{アシ}など僅^{アマ}三日^{アシ}の貯^{アシ}とまんの^{アシ}不
ち^{アシ}得るとまんの肉^{アシ}と糧^{アシ}若糧^{アシ}を獲るやう^{アシ}うが^{アシ}と
つ^{アシ}ども獸の所在^{アシ}を訊^{アシ}得る時ハ三四日食^{アシ}せば^{アシ}是を追ひ
終^{アシ}小其^{アシ}獸^{アシ}を得て帰^{アシ}て来る^{アシ}ことりヤ^{アシ}と云其強忍^{アシ}と知^{アシ}一

交易

一此島の夷ハ我シラヌシ小来て諸物と交易也又山丹夷ヨロツコ。スメレンクルの夷と交易きて其生産をかうかうあれど是島夷の専務とまひとまろぢや凡シラヌシよ来る者東はフヌツブ地名里數と久西モ十ヨロ地名シラヌシと去ちモ九五十里の邊と以限アとシテ是終歲中往來きて漁獵の業とる又交易となむ者も是より奥地の夷モ只交易の事と事ときて一年の中一兩度往來し其交易ひとまろれ物我渡ひとまろの物も獸皮米酒木綿相草斧針鍋の類と以てどれぞ島夷ハ山丹より来るやまろれ錦云相管其他鷺羽トナリ獸皮と以て製し繩より

一用の類と持來て交易ひ又府小来て傭化一業をなすもの
ある

一此島の夷山丹夷と交易ぢるかと終歲ちへとくろなつ然々
島夷山且よも小あづび山且夷来て交易ぢるかと島夷
のぞこいどもの物をシラヌシトヨヒ易帰コトロ又ハシボ
クシ獵一得たる獸皮或く斧小刀の類と以て山且夷齋一来
るところの木綿錦玉相管烟草針の類も交易ひ
一山且夷来る時先海濱小假屋と造て居となす山獵と云セ
ギヤガラ交易とすりあす島夷大抵其假屋と來アリ交易と
なす山舟寺家小みて交易ひるとある或ハ路傍街上す

て交易したことあるて一定のことなりと云

一山且夷来る時、鳥夷日々其假屋よまと相親して交易しる
かや甚まことに是山且夷諸物と交易しむることありば又其物と
貸しむことあれどなると夷等の事なれば後日其價あかひと責せめらむ
かやも慮おもひらん、安易やすしき諸物と借小來こらへて終よ其債さいとつくのよ六
とある。シバ山且夷帰去の時よ當アリ其責せきらす小苦こく追
逃おとりて山不入いりる者ひとのす然ぜんる時とき、明年山且夷又來こらへて其債さい
を贖あがり、其贖あがりあらざるものある者ひとハ其子其兄弟ひきと率
み歸かへり質しつとなりと云

一借貸の事、素すト筆記の事ことハなく其贖あがりの時とき不當アリ

そ山丹夷より安堵と以て夷等と強む者多く故に相共不
其対を論じて相撲擊もくもよどり少なからず然れども
又ソルモドク相和して又舊の如く物と貸して歸す者と
リヨ奥地ヲロツコロスメレンクルの類來て交易らるゝ又
大抵如此一

一此島の夷人といふ山丹夷はあにたゞとある男女は限
らび其部落にて鰐寡孤獨の親類縁者しなく貧困幼弱ふ
る者ハ従く誘引して山丹夷小交易し一夷の價錦三四卷よ
其人の強弱によらず云々七卷と以て之若其人殊よ幼弱な
れり又モ懦惰モテ用小堪ざる者云々つゝ其價錦を得

る事あらば雜諾と以て居る者あり

一 蝦夷島リニ北海岸或モリシリの住夷此島小渡アリて山且
夷とソドモ其孤獨ゆて親族の拒むたゞれも悉く誘引
来て山且夷小交易シテ多シ故ニスメレンクル山且夷
の部落より入リ往々脣頭黒點の女夷あるト云見一ト云

一 島夷滿州より支往昔ハ歳中小數度アリ趣ナリ
近代 本邦の諸物大抵島中より編くちアリより今ハ二三年
小漸一度ヒ渡海リモ趣ナリ其齋一行どもロハホイヌの皮
を上品メテ其他獵取の類を持行滿州の假府テレン即德
楞哩名小至テ貢セラモ又交易シテ持歸シムの物を山且

夷の持來るどろの物小異ちがひと以てども滿州夷の
渡わたりよも下くだりて其得うける多おほきと以て
幾許いくびの艱苦かんくと凌のぞき其所ところよ列はべと云

一 島夷滿州入貢の事ハ附錄ふり録詳載わざわざ以て爰ゑ贅ぜい也

産業部下

一 島夷じや鍛冶なづちとす事 蝦夷島じや近代こだいにとどけたまつ やや 按て徃時ぼうじ
物蝦夷島じやあずねあづねづれ時ときを鍛冶なづちして其用器ようきと製せいせしるる一一北地ほくちソウヤ邊へんの老夷じや其業ぎょうと熟知じゆしする者ものあり近代こだい小こもつて 本邦ほんぽうの諸物しょぶつ漸せん島中とうちゆう編はんく其業ぎょう態たい他邦ほかトと傳つたへなまま よア其業ぎょう廢わいせせものなならんう其業ぎょう態たい他邦ほかトと傳つたへなまま來きるももああげげ蓋あわせ島夷じやの考かう得とくて自じら製せいららややろろな

よよ

一 輛二種あくまゝ其形狀圖のよ／＼上圖の轌も魚皮と以て風囊と製一囊頭木耳と附て持とくらむと風口の箇所を木と彫り合せ製衣し下圖の轌ハ水豹の皮と以て風囊と製し鍛床で石面の平ちよと用ひ鍛槌ハ本邦の易や／＼ひともろのものと用ひ其他斧の類何よ／＼ば打錘の用とちひわれば悉く持參て槌の代ととちひ

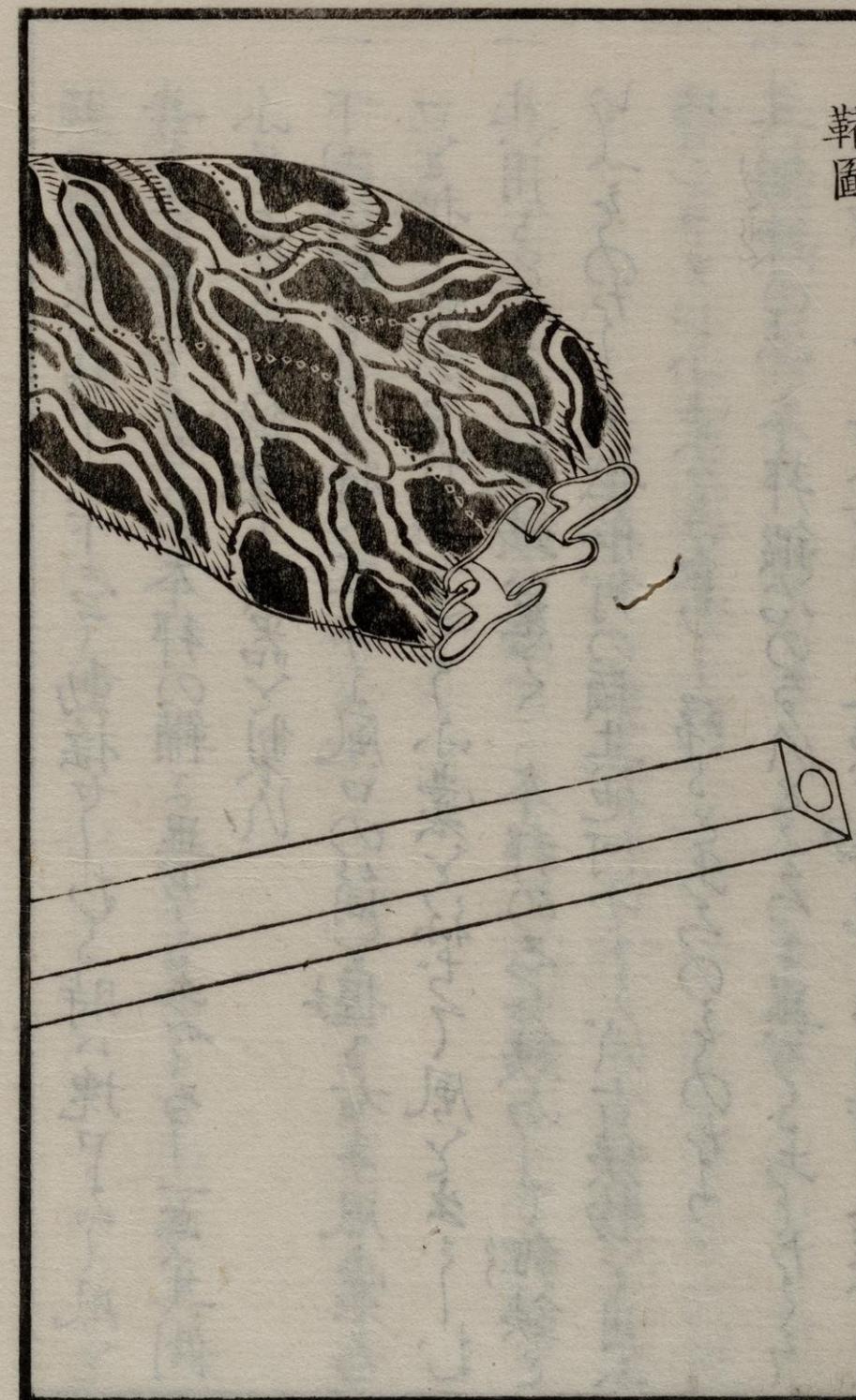
一 その鍛冶とちひ處ハ大抵家側よ片庇と設け其内よ／＼業とちひ

一 業態ハ圖のよ／＼轌二本と地上小置き筒口と相並べて土塊と以て其上をもひ塊面一口とひき一束をして兩手よ／＼

頭の風嚢を持て上下して動搖せても時へ塊口下へ風と
聲一太盛なる。本邦の鞴より異ならぬる。一曳其側
小居にて鍊と鍛鍊より其器と製れ

一下圖の鞴と用ひ時ハ左手ニ風口の筒を握る右手風嚢乃
口を把テ風の漏れやうやう小嚢をねぢテ風と生ム。も
一其用もところの地鍊ハ悉く本邦のもの鍊少て鉛鍊と
いふものなり大抵船釘の類其他何ふトバ古鍊物と用ひ
皆シラヌシ小來て交易一歸るとあらのものナリ
一其鍛鍊の法本邦鍛冶のものとところより異ちむかへ
乃鍛錠よもヤお延べく又鍊と鍛ちどりする時其鍊より

輜圖



鍛治圖



泥の類とすて火中より入火鍊となし凡刀斧の類製
終て後焼刃に入りたり 本邦のとく水中より入にて是
をもれとも鍛錬の具備うやれば精巧の器と製し生歎
あくらうば製衣とぞ悉く慶かて可悦物也
一諸鍊物 本邦の渡らどもうへて大抵其用とする所是
といふが且地習ひて物と削ると向て押は事稀うり
前へもく是を削る故小左刃の小刀を製用するあく圖の
あく

冠婚葬祭

一冠ハ蝦夷島のあく本と以て是を製し然て其禮ハ口熊祭

等の時衆夷皆是とからむ。

一 婦亦蝦夷島より異るありと聞くべ然ども其式必小異ある
ト、林藏親視せざれど其詳とづべ

一 蝶夷島を夫逸^{アシタカ}して婦勤むるの俗かて其身の衣服を云ふ
小及^{アシタカ}其夫其子の服皆一婦比織出ひアツシ布を^{アシタカ}此島
是よ又一アツシ。デタレベロ類あアモトツとも草木無數小志
テ多造りもひと能^{アシタカ}ながる男女の衣服大抵交易りのと用
ふ故小男妻勤て山獵とす。我邦山且^{アシタカ}は交易もて其婦よ
衣せざれど得べ况其倍女と貴び衣服も、色々の飾器と
化るトあれハ夫勤め婦逸^{アシタカ}倍習かて蝦夷島よ及^{アシタカ}る

ハムラムアム

一葬禮ハ蝦夷島と大少異フ。凡首長たる者死リる時、
先腹をみて腸と云ア。家外小圍の木板上に床を設け其
上小あげ置日ニ女夷をして水とアレギ。是を洗トメ日ニ乾
トテ腐敗のトカシミ。是を名付てウフイと云。如斯レバ
事凡一年一年と經る。年あらざれ。許の日月と經てテ四肢
身體少しくも臭腐のちくなき。時ハ大よ女夷と賞みて衣服
酒烟草の類と與ふ。若少しくも腐敗したる有ふ當ては忽女
夷と殺して先よ葬ア。其後死人を埋葬シと云。事近代ニ至て
廢シ。

似たア

一棺ハ長大少て其文彩と彫刻は事實小精工と極るもと
あれど衆夷力と盡じとつとも凡一年許と経るよあくされ
其巧と後れかと能く此棺成ると待て死人と納め送葬へ
とふとも地中少埋没も少あく只地上少暴露し

一女夷を地中少埋葬とて牌と立てる事因の

一凡死者ある時ハ父子兄弟親族の者そりナ及んで他人々
之ども相集まつて涕泣号哭しあと輶夷島公然と云ひ乍ら
此島尤厚とひ總て夷情と熟察しシテ七情中哀情殊よ深
き小似たり死者の事ハ年と經る後と云ふて談話しあむ
を忌ミ若言止ムと得レバ其者の死状と説く小云れモ

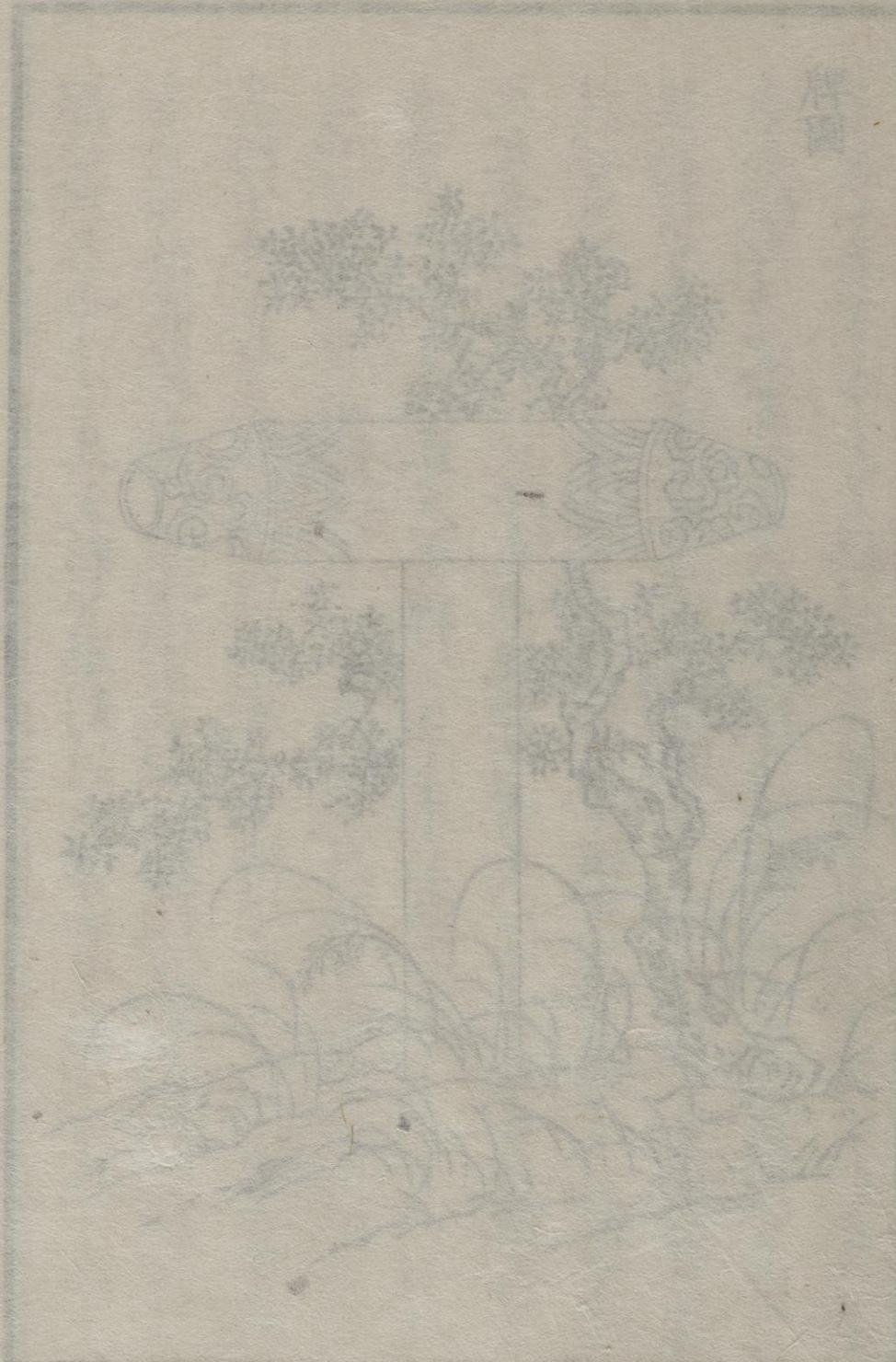
牌圖



達久別人圖



后圖



逢久別人圖



他人ぞりて垂涙ぞ是と語て或離別して後其人の事状
言ふこと忌々言其事は及ぶ時ハ相思の情よ堪ざる所以て
知一故よ葬祭の事は詳聞らむかとて得ざアレと云

一貧賤夷のぞまハ葬事終て蝦夷島の如一

一蝦夷島死者ある時ハ家と焼あつて此島是と考へ只横
死の者らる時ハ其家と焼と云

一祭事ハ蝦夷島よ異る事ナリ

一拜禮の類其他の小禮大抵蝦夷島のちいところのちく只久
別の人小逢時ハ圖の如く相對して手ともす合ひを丸三
次みて涙を垂れ其後手をひき共よ退き互の安否を

何れと問ひ語り

一此島も魚蝦夷鳥のまゝく熊祭とす。其行事大抵異状ある
まゝく唯熊と養ふ事と凡二三年ふゞて漸長太ゆて其
事を行ふ故小其熊牢と破ア人と咬ムあらむかと恐れ
時くこの齒牙と齧ム其状圖のまゝ先牢中の熊と縛バる
小繩と以く猿と造ア牢中よ入生繩の両端、牢の左右外
出して二夷是と把ア一夷の側モ竿と牢中よ入れて猿マサニけ
熊の頸ル小纏タナカと待て左右に兩夷繩と夷時、
縛バ束スルテ熊拔躍ハシケルとあらび其時牢蓋と糞ヒツクして牢中よ入ア其四足
と縛バてあらや圖のまゝかゝ牢外小出一衆夷捕獲ハシメて

去熊齒牙圖



土蜘蛛圖



其齒牙と歛ある斷器（鋸）と鋸の大きき物小刀の又ふ割痕（くずれ

一たる器あつて夷の自製（じせい）する所もす祭時の殺法蝦夷
島木と以て壓殺（あつさつ）此島ハ射殺（いざな）と法とい

一丸熊祭の事ハ奥地ヲロツコ。スメレンクル。サンタン。
コルテツケの諸夷（ツブリ）といふも行がると云うナ（ト）云

ヲロツコ夷の部

一東海岸シ。タライカも奥地小ヲロツコと称する異俗
の夷あり其人物大ふ蝦夷島よ異よて其言語（ごんご）も又ひや
ううの理髪（りほく）總て剃切（てきせき）のちく男夷ハ一組小しく背よ
垂れ或は圍（まぐ）のちく束（つか）て頭よ垂る其情態俗習唯よ一時の

應接あれハ詳あるあやかゝとひゞし其顏色容貌下品ひじ
て暴戾ばり無慙むぢんと表せり

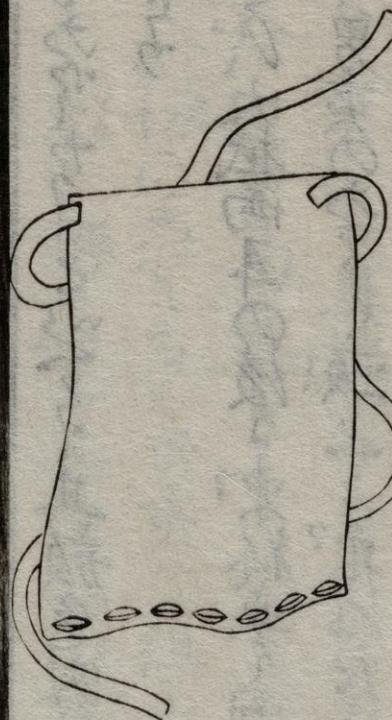
一女夷めい必髮ひはつと乱垂せば大抵兩耳の後うしろに束縛つづく或て圖ずのびく
か組くみて背小垂又も男夷めいのちく頭上かぶに束縛つづくたる者あり
其狀じょう下くだべ其容貌めいよう顔色蝦夷島えぞしまよ比そなへては美艶うつくしきかくて且
人ふ媚まごすの妖態ようたい多く浴湯施粉よくとうしほんのたぐもかうやうじとも目く
其面おもてと水濯みだれ其頭かしらと梳くしア粧飾けいせきとあら者多

一耳飾みみかざしの環わん南方なんぽうと異ふて男夷めいハ小環こわんとは女夷めいを大環だいわん
みて圖ずのびく數環いくわんの玉たまを飾かざる

一衣服いふくは大抵水豹皮魚皮其他何ふくび獸皮と以て是と製

以木綿衣のちとをも皆山且夷と交易してものもあらず
一此夷も又獸魚皮と以て製して脉衣履鞆の類と着る所
一南方也如一

一男夷被服の下襖子の上白布と以て製して褲カモのびとき
ものと着一其鷺貝鶯と附て飾となしやうに因のや一其被服
れ状南方と大不異か一衣服のつけ殊小短く漸く腰と下



るのみかて裨子脚伴と著たまやま實の致^{じゆ}競^{くまき}くどくして
其業となひゆると知るべし

一女夷ハ肌膚と出しあとを耻ともれど其衣長^{ローブ}丈踵^{シテ}及
び内猶襪子脚伴と著け裳末飾銅と著^スたと圖^{ハシマ}べ

一飲食の事亦南方小異^スたゞ歟魚の肉或草根本實と食ひ
一其居家一處小水住^リてなく水草魚歟の利と追^シて時々
諸方より遷移^シくる處^ニの^ハ假屋と營て其内^ニ群居
ちて業となひ然れど其遷移^シる所大抵地界ありて妄^ニ
轉移^シざるべ若一冬月よりアツテ漁獵^シの獲物^ヲき時
は百里の外^ニ遷移^シるもあらずども其平生より漸四五十

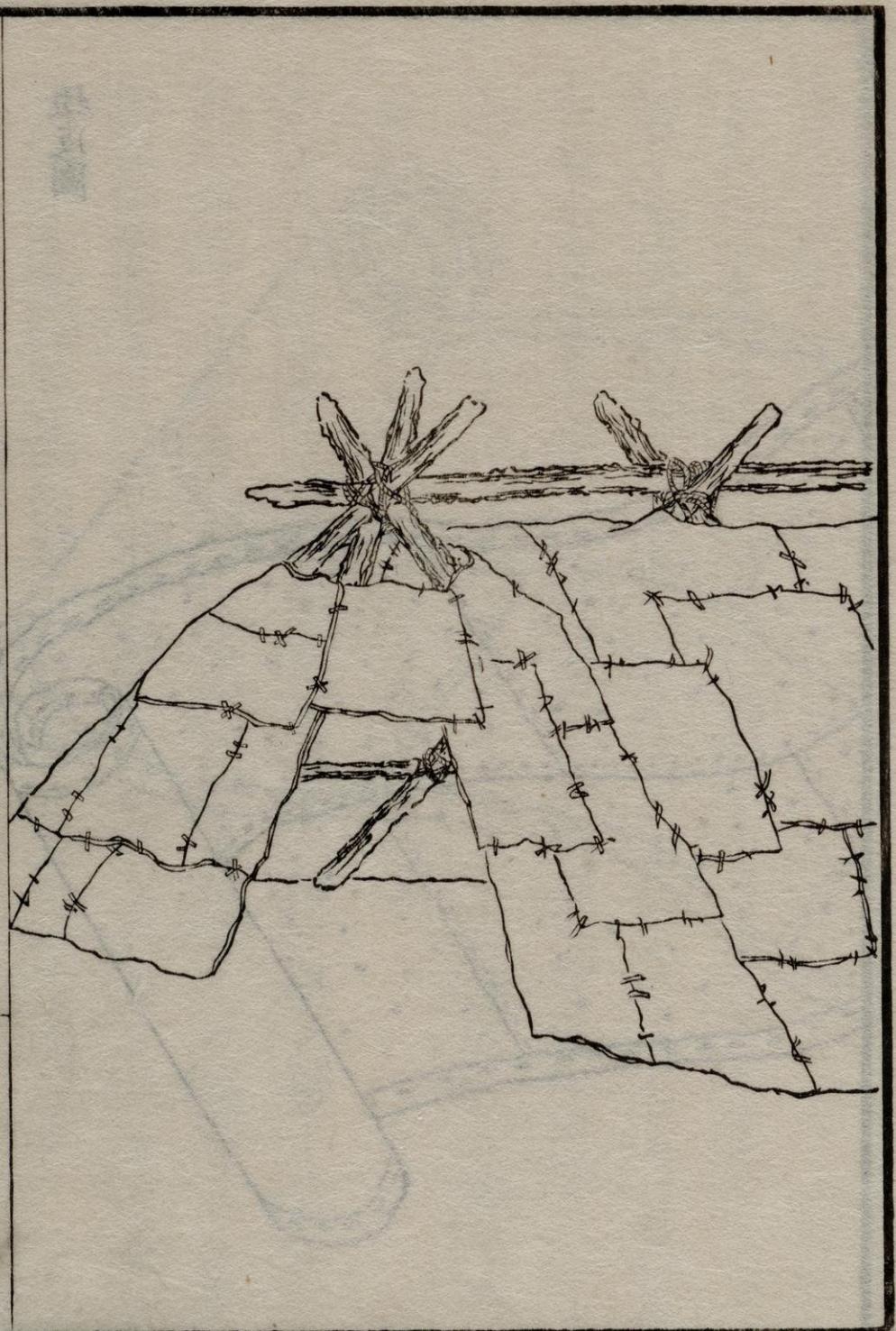
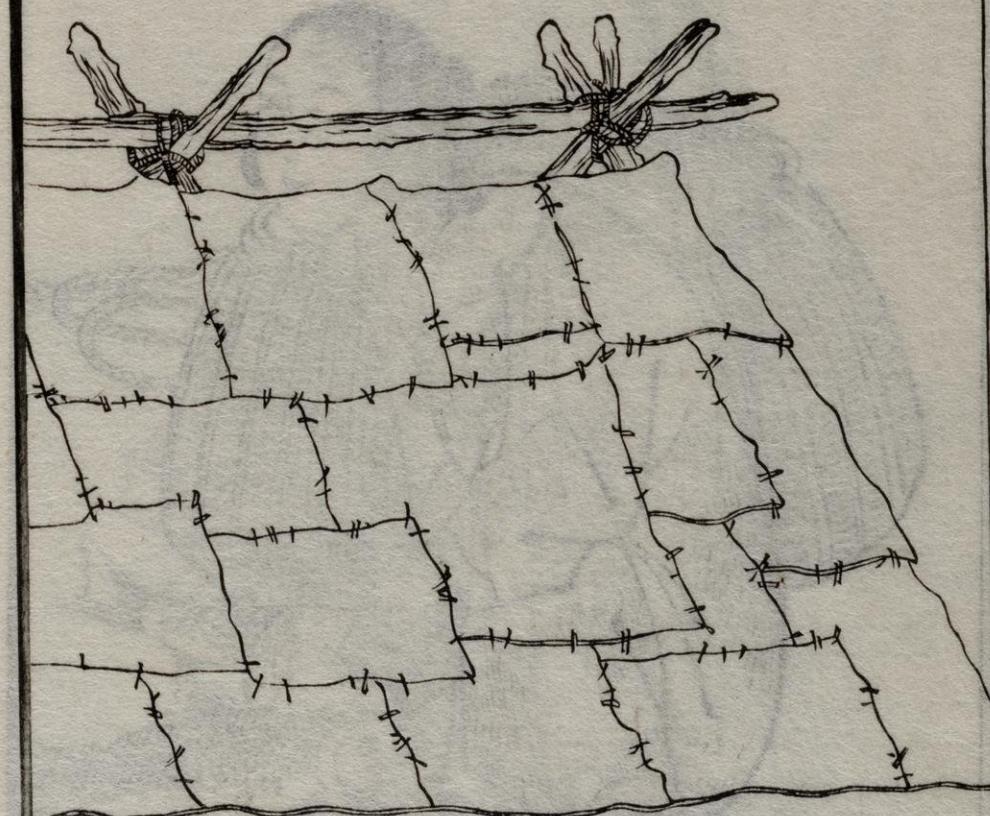
ヲロツコ夷圖 其一



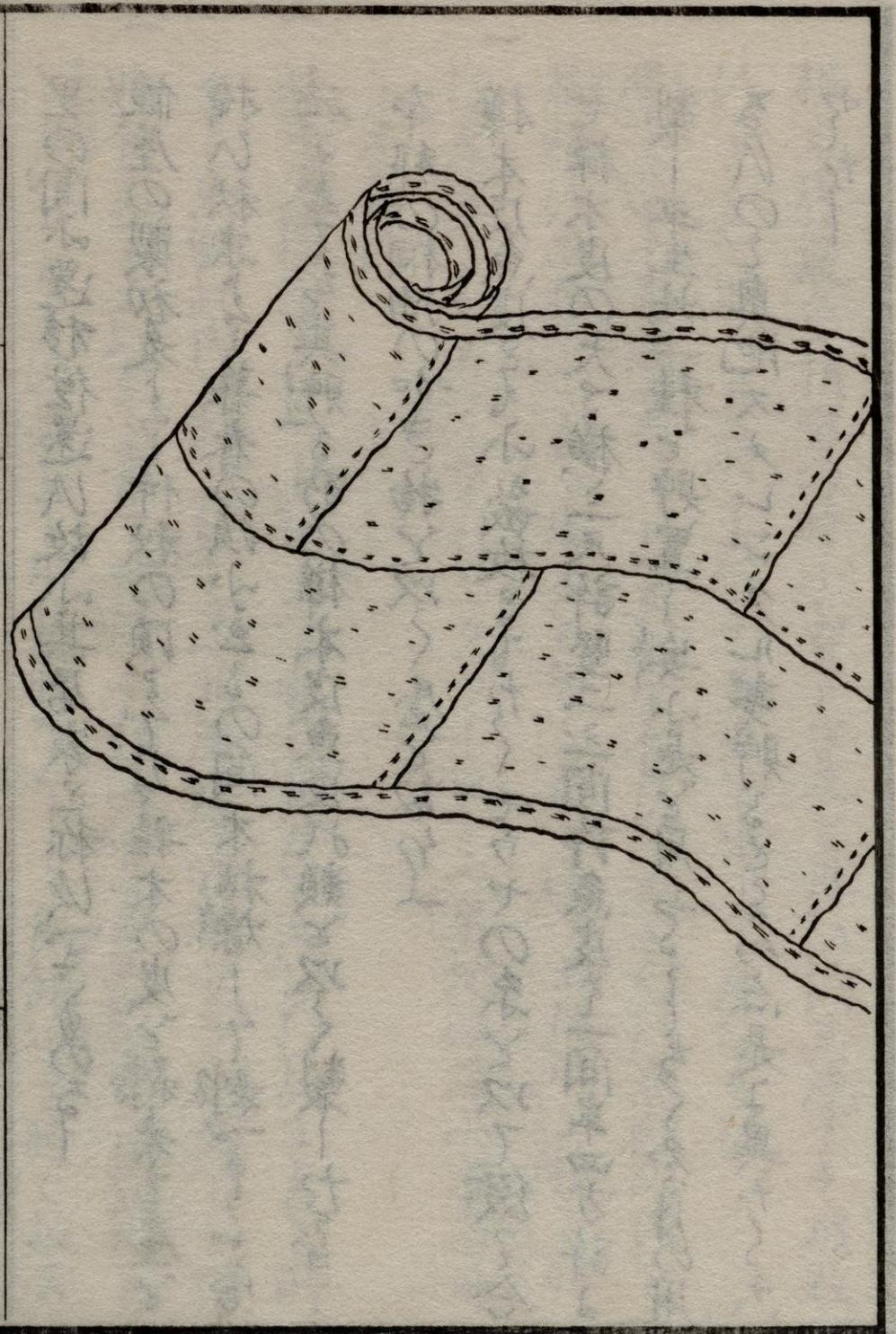
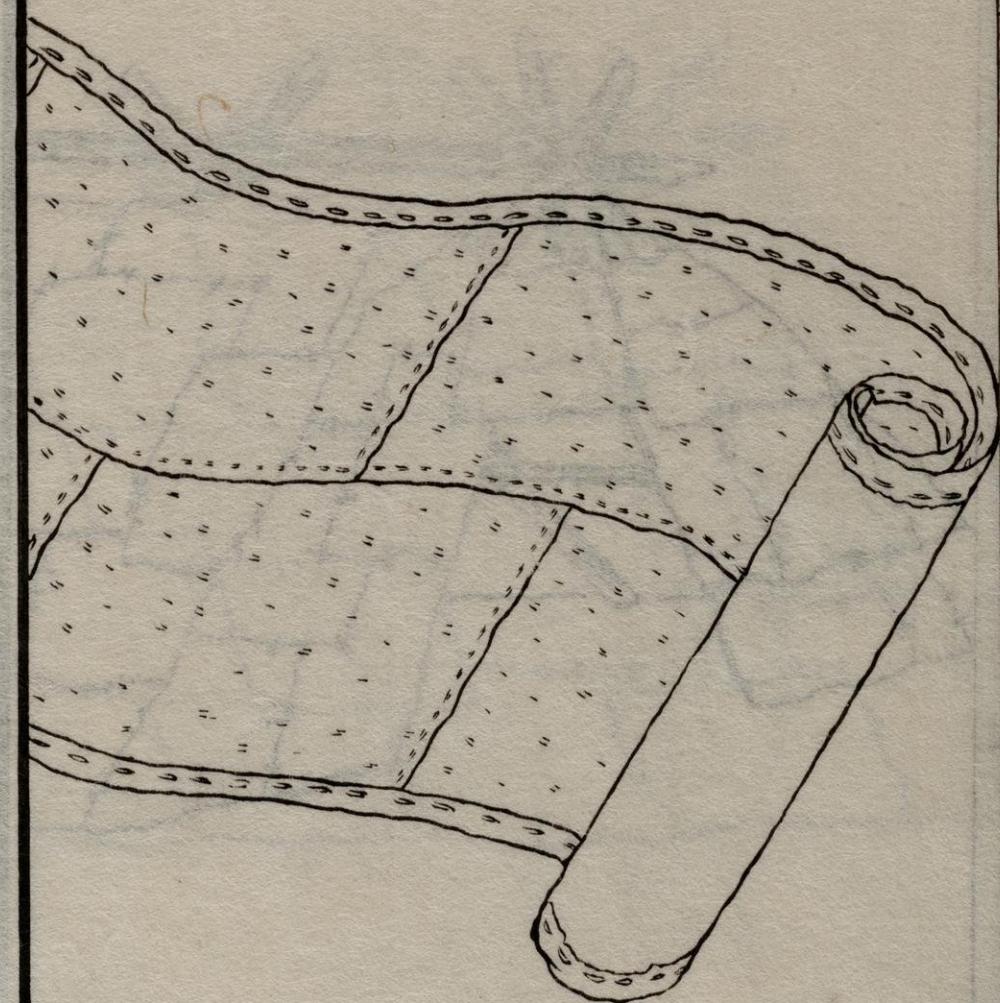
其三



ヨロヨロ假屋圖



綴皮圖



里の間小遷移往還し故小其居家と称シ。アリ。一
假屋の製初夏より仲秋の頃まで雜木の皮を剥來て屋を
掩ひ秋まゝ暮春の頃小至るの間木枯燥ハヤシ剥ハラフて
時よりて其貯ハマツクる所の樺木皮魚皮比類を以て製ハサフたる
本邦の桐油の如き物を以て屋をあら。

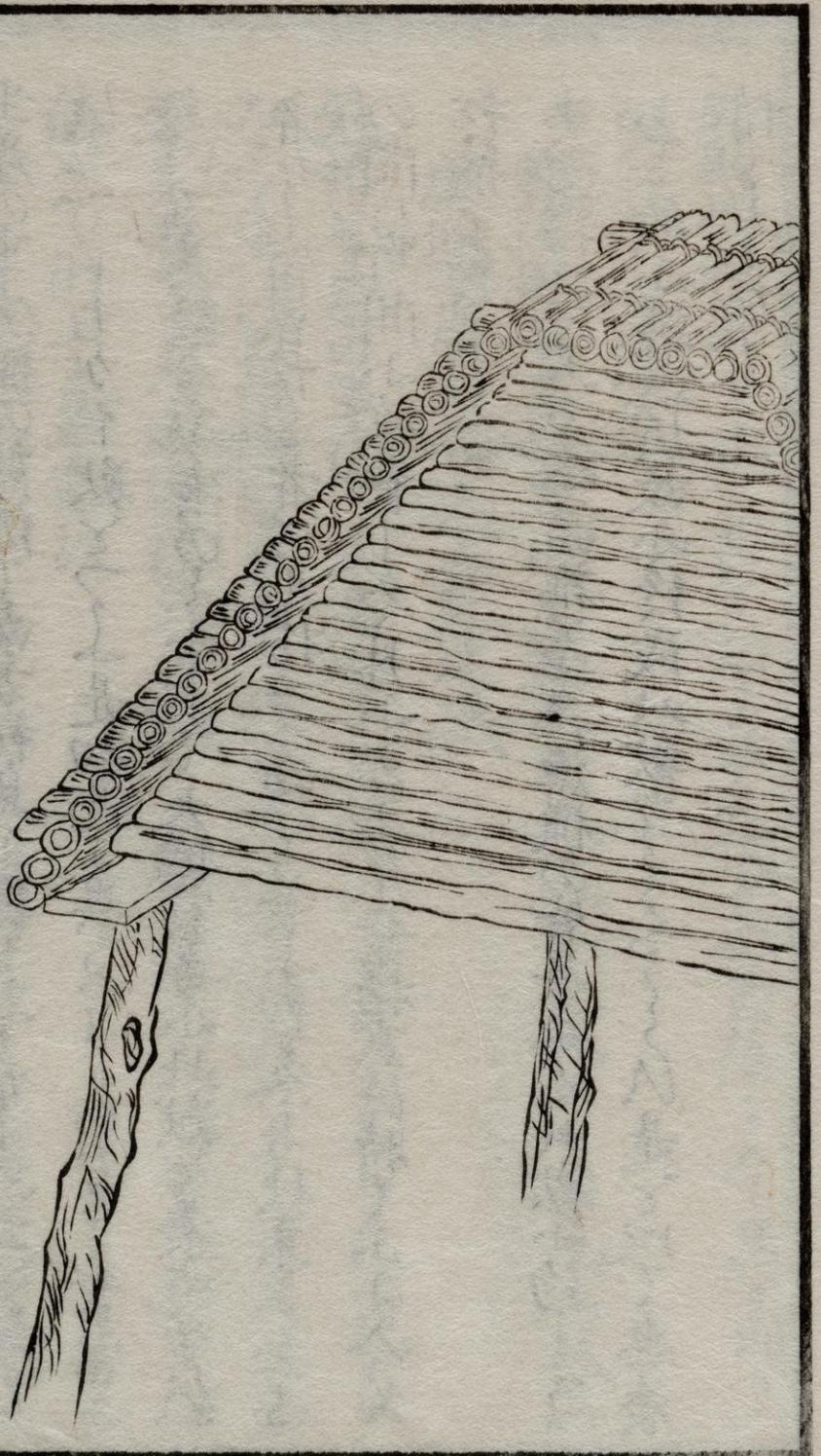
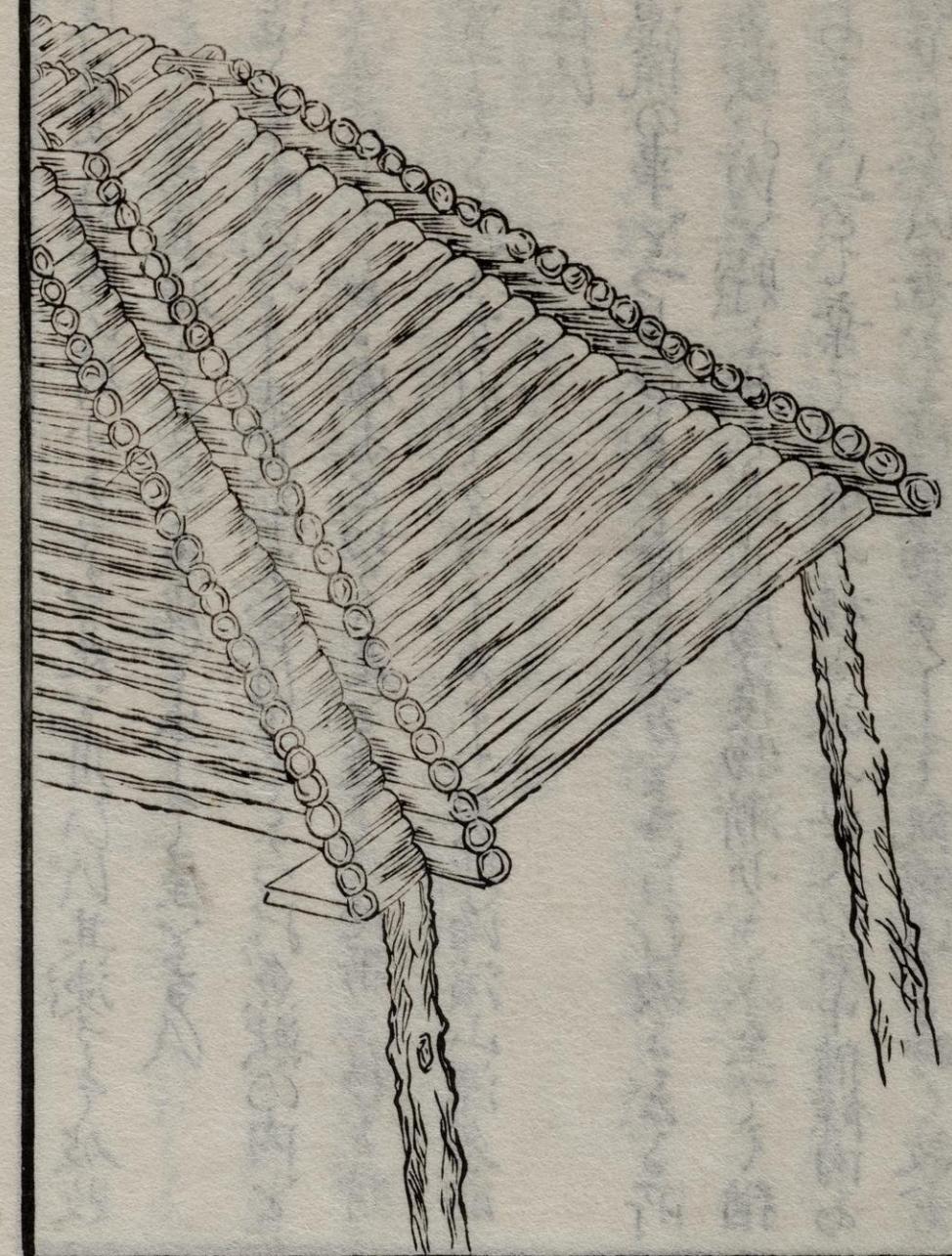
一樺木皮魚皮とも小幾枚ともなくモウヤの糸と以て綴ハシメて合
せ樺木皮の大と横、三尺許、豎二三間許魚皮を一間半四方許
製。平生此二種と貯置て、妄小是と用ひ。とちく冬月の用
ちへのと奥地スメレンクル夷貯ると云ふ。是は異ハズ。

ヤナ

一 檀木皮嚴冬積雪の時小至てより是と用ひび其凍て破敗
ひることと思ひ其時よりアリテ魚皮と出でて屋とまへ
一 廩と造る事閣のぞく是其平生食ひるところに魚獸の肉と
蔵貯まつハ遷移せんいしてある處木と切く是と造ア又他所より移る時
は棄置きしてあるちやなれどタライカより奥地海濱山澤各所
小建在すこ

一 此夷漁獵の事とつともアリ實よ其力とアリ故より所
多く魚獸れ肉と貯まつふ然アリ其處獲物漸少アリ至ても猶
貯食アリとアリども棄て他所小移る故小無人の倉中猶餘肉あ
るもの少アリバ若毛アリ所獲物多くて飢餓迫まる時アリ故倉

廩圖



小廻アシタカて其餘肉ミツナと索求サクムして食シテル

一 生産の事漁獵の態總て南方初島より異モレバチヤー口、犬と養ヒテリトトナカイ獸とつよ是初島より異モレバチヤー口と少貿富ト
ヨリテ其數多少有ミハリテ大抵家每小此獸と養ヒテリ者
者たリ富貴なる者は凡拾二三頭と養ヒテリ初夏より秋末より
の間リ野間ノマジ小放養シラフシテ冬月シキニ草葉枯盡シラフシテ時ハ山ヤマに入ス
松蘿マツロと食せシテル

一 村遷移シテリテぢシテリテ諸雜器或シテリテ漁獵の皆具悉く此獸小約シテリテ
エリ所シテリテ小運送シテリ故シテリ終歲此獸シテリテシテリテ是と以て患養
情シテリシテリ

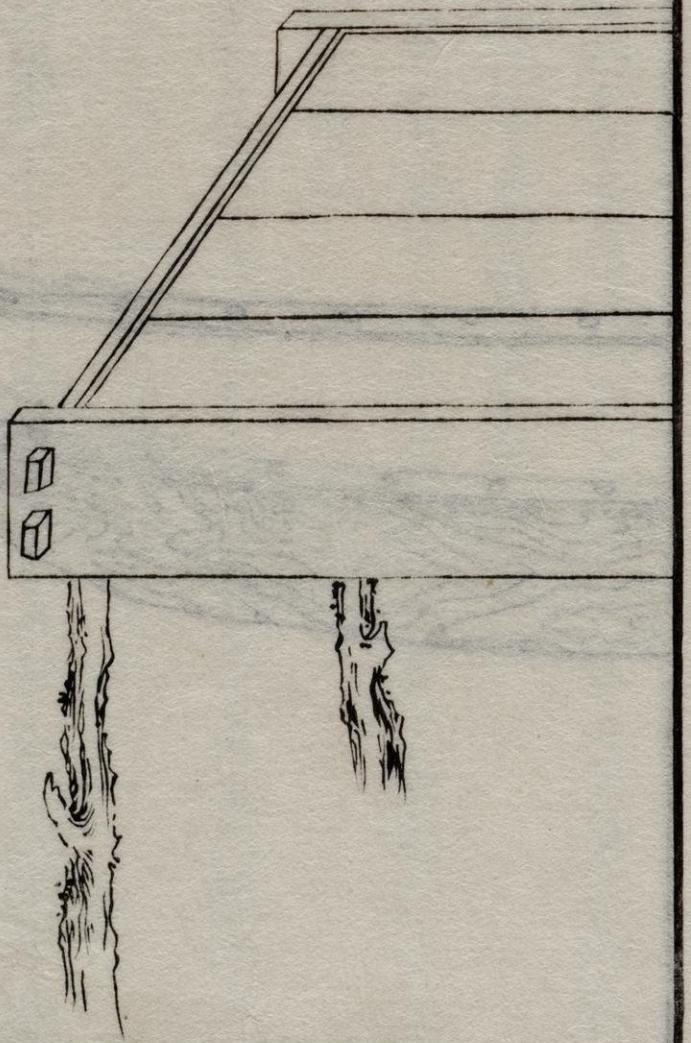
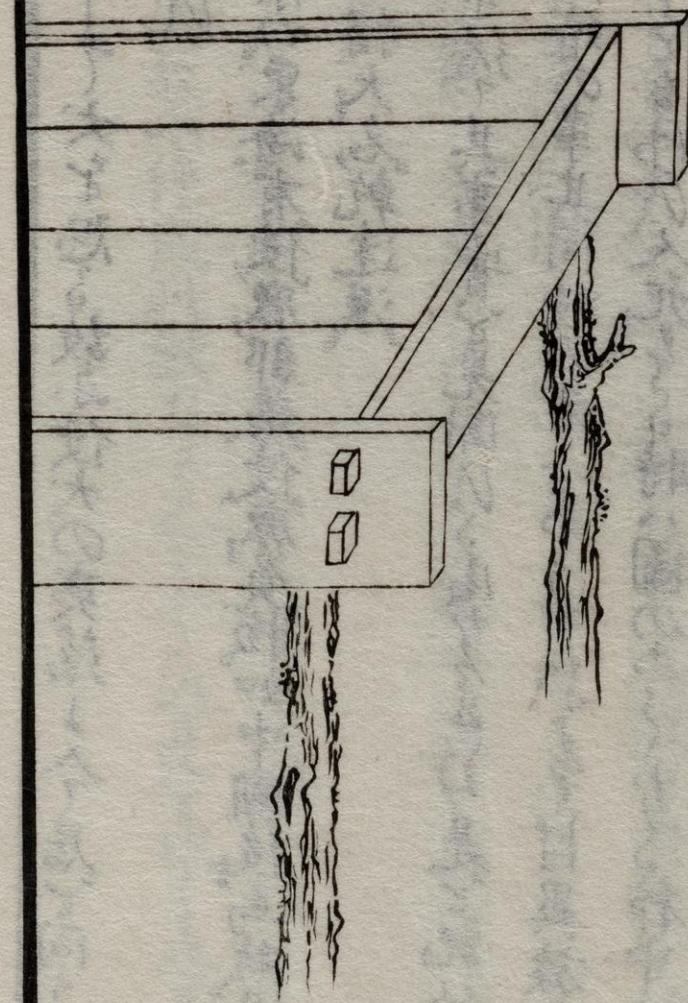
一此獸性軟柔少^レて、犬を忌む故に使犬の夷落より居と同う
ちゆうじゆと得ば

乾隆御製集曰。東海有使鹿部落。使鹿負物如中國役馬然。其
鹿似常鹿而稍大。名乾達漢。

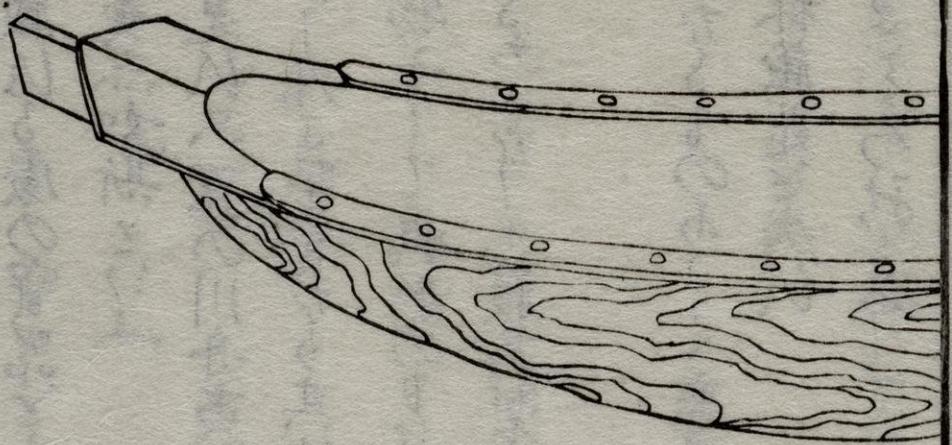
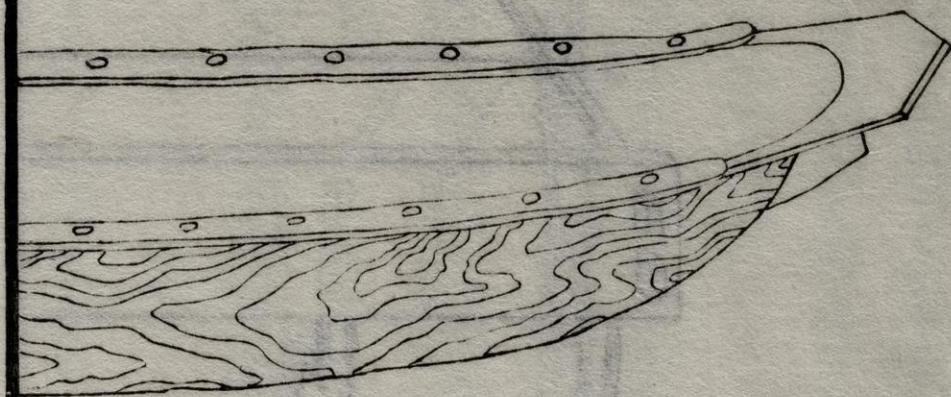
一冠婚葬祭の事。總て其事實と見聞した處から。是と記し
ゆと得知ひ。結婚の事。其同種の者小あらず。よもよけ異族の
者と通じる。もともと人死する時ハ圖のやぐらから棺中小
納めて街上に暴露ひ

一夷等相戦て人を殺す。或も怨怒した所あひて竊小人を殺す
其事發覺する。必ず其親子兄弟讐讐^{あわ}と報ふ。此事なし

コロツコ棺圖



ヲコワユ川舟圖



其罪と責め其人を立て藏したる處の寶器と出一其罪と謝セ
亦む奥地スメレンクル夷亦如斯とりよ

一器械の類まゝ異る物と見へ只一品の川舟夷の自ら造るや、こ
ろ比物あつ其形圖のぶどう殊よ堅實たり其他海船の類皆南
方夷の製衣ひるどくろり物みて異形のすれすれ

一弓矢の類總て南方小異るやうなり只衣服其製と異少ん圖スメ
レンクル夷の部小出ひ

一此夷種中ニ集々首長たるものありと庶夷と指揮ひるト
南方の如一酋長の方名林蔵是と失ひ

一此夷が事實ハ林蔵唯見るどくろみみて卒より暫し同居

セーナヤナギ初島夷のとく親昵（しんに）いふところよあへ故
小其情態の巨細を知るやうにうべ

北蝦夷圖說卷之三終

